

## ○2番（山口 等君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さん、こんにちは。議長より、登壇の許可をいただきましたので、ただいまから2番 山口等の一般質問をさせていただきます。今回は3項目の質問を予定しております。まず始めに、「道路行政」について。2つめに、「教育」について。最後の3番目に、「まちづくり」についてでございます。きょう2日目でありますので、同僚議員とですね、重複するところもあるかもわかりませんが、私なりに質問をさせていただきます。では早速ですが、質問に入らせていただきます。

まず始めに、「道路行政」についてであります。JRの武雄高架が開通して、平成21年12月に開通いたしました。それから、もう4年が経ちますけども、それ以来、武雄北部都市区画整備事業がですね、武雄駅周辺で本格的に進められております。駅北口もですね、随分様変わりしてまいりました。まだ途中段階だとは思いますが、駅北側の市道西浦永松線が現在、クランク状態ですね、非常にこう狭くて走りづらいような状態になっておりますけれども、このクランク状態が、いつごろまで、こういう状態が続くのかですね、まず御質問いたします。

## ○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

## ○森まちづくり部長〔登壇〕

モニターお願いします。（モニター使用）議員、御指摘の区画整理事業が、今やっているところでございますけれども、まあ大変迷惑かけているかと思っております。議員指摘の道路につきましてはですね、土地区画整理事業内の生活道路として整備しております、このモニターのほうにありますけど、この丸の部分が特に交通に支障を来しているんじゃないかというふうに思っておりますけれども、今施工中の区画整理事業と、街路事業、永松川良線ですけれども、この分の工事が完了するまでは、今の区画整理の事業、区画整理の道路を利用していただくことになるかと思っております。区画整理事業の北のほうの、永松川良線の工区の工事につきましては、平成27年の着工を目標に、今計画をしております、いずれにしても、交通安全対策には、十分配慮をしていきたいというふうに考えております。

## ○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

## ○2番（山口 等君）〔登壇〕

まず現状をですね、写真をちょっと見てください。これがですね、最近開通した市道西浦永松線です。これは八並の方からですね見たところなんですけれども、この道路がですね、このように今、走ってですね、駅の北口に通るというふうな状況になっております。この状態が、しばらく続くということなんですけども、市道永松川良線が今整備中でございます。この現道、永松川良線にですねタッチするのは、大体いつごろになるのか、そのあたりのと

ころをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

永松川良線につきましては、先ほど申しましたように、27年度に着工をしたいというふうに考えておりました、それから、何年ということは、ちょっと今はっきりは申しにくいんですけれども、5年ぐらいはかかるんでないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

はい、27年度から着工して5、6年かかるということですね。これ夜間の先ほどのところですね、これは夜間の状態です。これが、反対から見たとこなんですけど、こういう状態が当分続くということが予想されますので、そうした場合、ここどうしてもその走りづらいということで、八並方面の方、またはその武内川良の方面の方が、小楠の交差点を利用されることが非常に多くなると思います。そういったとき特に、朝夕のラッシュなんですけど、右折、駅方面ですね、武雄温泉駅方面に右折するのが、非常にしにくいということがあるかと思うんですよね。私も何回か通りますけど、非常に右折が、もう1台か2台ぐらいしか通れないというようなことがあります。それで時差式の信号機等にできないかどうか、また朝の出勤時だけでもですね、信号機の調整等をしていただいで、そういったことで、少しでも通りやすいような状況にできないのか、そのあたり、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

交差点の改良を早急にするのが、一番いいわけなんですけれども、現時点での、小楠の交差点の改良は変則的になってですね、部分的に危険が増すというふうなことで、交差点の渋滞が緩和できるようにですね、先ほど議員おっしゃられましたように、信号機等の処理ができないか、公安委員会と協議をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

公安委員会と協議ということなんですけど、区画整理事業を進めていくためにはですね、いろんな問題があるかと思えます。いろんな問題が生じて来ると思いますが、いろんな関係機関と十分協議されてですね、住民の皆さんが、安心して生活できるように事業を進めていってほしいと思えます。当面はこの状態が続くという考えでよろしいわけですね。

そうしたら、道路行政の2つ目の質問に移らせていきます。市民からの要望に対する、対応ということでございます。市民の皆さんからいろんな要望が来るかと思えますけど、今回は身近なですね、交通安全関係のですね要望に限って、取り上げさせていただきます。この種の要望はですね、各地区の代表者、区長さん等から要望書として文書で提出をされておりますけども、年間、どれくらいの要望件数が、交通関係だけなんですけど、どのくらいあるのかまずお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

交通安全関係の要望でございますけれども、平成22年度で15件、23年度で9件、24年度も9件、25年度につきましては現在のところ1件という状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

年間約9件ぐらいの要望があっているということなんですけども、その後の要望を受けてからの対応、流れといいますか、それはどのようにされているか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

要望につきましては、地区の代表でございます区長さんの名前で総務課のほうにお受けをいたしております。以前は、市のほうで受けまして、交通安全関係ということで、武雄警察署のほうに提出をいたしまして、警察のほうでいろいろ検討をされていると。警察で対応する部分についてはされますけども、道路管理者であります国、県、市については、警察のほうから意見を言われるというふうなことで、非常にこう対応があいまいというふうな感じがございました。

そういうことで、一昨年から、現場におきまして、関係者が集まりまして、協議をすると。その場で、区長さんのほうから、要望の内容について御説明をいただいて、できるかできないのか、あるいは警察の守備範囲なのか、道路管理者の守備範囲なのか、いつごろできるのかというのを、現場のほうで協議をするというふうなことで、以前と比べますと、担当部署もはっきりしますし、よりスピーディーに対応できるというふうな感じで、現在は対応しているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

交通安全関係はですね、国の要望に関しては、国道関係は国道事務所と、県においては、土木事務所ということで、信号機とか横断歩道、また、一旦停止、そういった規制関係は、警察公安委員会が所轄すると思うんですけど、複雑な機関がですね、複数ありますので、なかなか対応が即というのは難しいと思うんですけど、なかなか文書をやっても文書で返ってこないという声があるわけなんですけど、そのあたり、今どういった回答の仕方をされてるのかですね、お尋ねいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾政策部長

**○松尾政策部長〔登壇〕**

案件によりましては、予算の確保が必要なもの。あるいは先ほど言われましたように、規制がかかっているものについては、公安委員会が判断をし、処理をするというふうなこともございますので、一概に要望からどのくらいの期間で対応できるということは、一概に申し上げられませんけども、できるだけ早く対応するようにいたしているところではございます。

回答でございますけれども、現在のところは、文書でお答えするということはいたしておりませんが、必要に応じまして、そういう形でお答えし、あるいは進捗状況について、進み具合に応じて、随時区長さんのほうにお伝えをしていく、というふうな対応をとってきたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番山口等議員

**○2番（山口 等君）〔登壇〕**

もちろんですね、予算等でいろんな事情があるかと思えます。また、すぐ対応できることばかりじゃないと思えますけども、これ市長にお尋ねなんですけど、書面で要望してあるんで、ぜひ、短期間のうちにですね、書面でそれなりの対応をしてほしいと。というか、即答はできなくてもですね、今こんな感じで考えてるというふうなアドバイスの前向きの言葉をですね添えて、文書でぜひやってほしいと思うんですけど、市長そのあたりどうでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これってケース・バイ・ケースだと思いますよ。だから文書が必要な場合は、文書でね、法的な位置づけも込めてやらなきゃいけないでしょうし、全部が全部で文書だったら、それこそ遅れると思えますがね。だから、ケース・バイ・ケースで、柔軟に対応していく。ただし、やっぱりこう切実な要望っていうのはね、あるのは事実ですので、それはきちんとやっぱり優先順位をつけさせていただいて、そこで対応するっていうのが私の見解であります。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

極力ですね、文書でっていうことなんですけども、期間的にも結構時間がかかって、回答が出来るっていうようなこともあると思うんです、できるだけ短期間のうちにですね、回答していただくように、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	12時00分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続けます。2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

午前中の質問の、次の質問に移らせていただきます。2つ目の教育についてであります。武雄市はですね、どこよりも先にICTを利活用した教育に取り組んでおられます。また来年4月からは、武雄市内の小学校にタブレット端末が配付され、より効果的な授業が始まるようなこととなります。

武内小と山内東小で先にいろいろなことに取り組み、子どもたちがですね、授業への意欲を向上した。2つ目、授業に集中していて顔が上がっている。担当の教師もですね、説明がしやすく、子どもたちも授業がわかりやすいというようなですね、非常に成果が出ているようでございます。

ただ、これから先、子どもたちも社会に出ていって、いろんな形で情報化社会になっていくと思うんですけど、今よりさらに進んだ中で生きていくことになるかと思うんです。それで、だからこそ今、タブレットのですね、活用して、慣れ親しむことが非常に意義があることだと思っております。今後もですね、ぜひこの推進をしていってほしいとこのように思います。

しかし、小学校の低学年は、特に、「つ」がつく年齢、8つ、9つくらいまではですね、いろんな基本的な言葉づかい、またあいさつ、礼儀といったような心の教育も必要になってくるかと思えます。このようなことで、今どのようなことが取り組まれてですね、今後どのようにそういったことを進めていくような考えを持っているのか、教育長にお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

## ○浦郷教育長〔登壇〕

2校で先行してタブレットを活用したということをご紹介いただきました。この先行した2校の意義はきわめて大きかったなというふうに思っております。こういうものだろうという予測が、非常につきやすかったということでもあります。また、実際の例についてもですね、ほかの学校にも広めていきやすい体制で取り組んでいただいたと。

それから、2つ目にお話ししたいのは、実はずちの委員会等でも話題になるんですが、このICT教育を進めたときにどうかという論議になりやすい、そういう論議が非常に多くなりやすい。それではないだろうというふうに思っております。詳しくは後、教育監のほうから話してもらいたいと思っておりますけれども。

3つ目としましては、「つ」のつく時代が非常に大事だということは、今議会でも箸とか鉛筆とかの話にありましたように、これは同様に思っております。ちょっと切り替えてもらっていいですかね。

(モニター使用) 子どもたちの心の教育という面で具体例を挙げますとですね、非常にたくさんあるんですが、本当にどこの学校もよく取り組んでいただいております。

これは武雄北中学校の校区であります、ご覧になられて気づかれると思いますが、中学生と小学生が一緒にあいさつタイムというのを、きょうもされてたようでありますけれども、そういう形で取り組んでおられます。

中学生が小学校に行って読み聞かせるとかですね。こういう小中の連携というのが、最近、非常に各学校で取り組んでいただいているということを感じます。これは、ご覧になられた方もいらっしゃるかと思います。武雄中学校で、赤ちゃん登校日ですね、中学生との交流ということもございました。あるいは上級生との遠足。これは昔もあったかもわかりません。それと、こういう感謝の気持ちをですね、花の贈呈、若木小学校の例かと思っておりますけれども、地域のいつもお世話になる人に感謝の気持ちを持つとうということ。

ほかにもですね、例えば中学校でいきますと、山内中学校なんかの立腰教育ですね。あるいは川登中では立志式等もありますし、武雄中では武中のちから構想での実演とかですね。北方中では郷土愛の育成ということで、校外にたくさん出て活動をしておられます。

そういうことで、学年を越えて、あるいは学級を越えて、あるいはその地域に出向いて、異世代の方との交流、あるいは異学年との交流等々ですね、心が動くような場面というのを数多く設定して、これを培っていただいているということ、1つ申し上げたいと思います。

もう1つは、やはり中心となるのは道徳の授業でございます。これはふれあい道徳として、保護者の方に参観していただく道徳の授業を毎年やってるわけでありましてけれども、公開をしているようなところがございます。その進め方を見ましたときに、現在、年間10日ほどの土曜日等の開校をしておりますが、そういう時間を利用して、保護者の方の参観をいただいて交流をすると、そういうような授業が非常に増えているような気がいたしますし、PTA

や育友会の皆さん、保護者の皆さんの協力を非常に強くいただいているということ、今年特に感じております。

### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

教育長の答弁ができるのは、やっぱりね、こういうふうに教育委員会が首長から、多くの場合、独立しているからこういったことができるんですよ。ですが、ちょっと僕が非常に危惧しているのは、あす何か正式な発表があるらしいんですけども、何らかの形であるらしいですけども、教育委員会の、なにかなく教育長の権限が首長に移るということで、首長が最終決定権まで有するという。それとなおかつ、今までの教育委員会というのが審議会に成り下がって、かつ教育長が審議会の事務局長の位置づけになるということが、国の制度改革としてそれが出されると。それが次の通常国会で法案として出てくるということを知っていて、あした何らかの表明があるらしいんですけど、私はそこに強い危惧をいただいています。

と申し上げますのも、今の私の立場でいうと、もう強大な権限があるんですよ、教育委員会に対しても。その1つが予算の編成権があります。予算の編成権があつて、かつ、もう皆さんたちおわかりだと思うんですけども、例えば学力調査の公表については、教育長と私は真っ向反対でした。私は出すべきだと、教育長は出すべきじゃないと。しかし、これを密室じゃなくてこういう議会の場で、公でこう議論をして、結果、教育委員会が——私の言ったこと、100%じゃ当然ないんですけども、いい判断をして公開というふうになってるんですね。

ですので、首長というのはものすごく強大な発言権があります。きのうの青陵中の問題だってそうです。私がここで発言をして、きょうの佐賀新聞とか日経新聞の社会面まで載っているんですよ。ですので、これ以上僕、権限要りません。迷惑です。それよりもね、やっぱり教育は官、官です。それと、教育の場が政治に、やっぱりね、関与するというのは、それは僕はおかしいと思います。政治から一定独立したところで、教育の現場でいろんな議論をして、そこで決めて、教育委員会が責任を持って行うということが、僕はね、それが僕は一番いいものにつけると思ってるんですね。

ただし、じゃあ首長の権限を独占するということについては否定するわけじゃないんですよ。これは例えば大津市の、僕は大津市の市長とも一定の交流がありますが、あそこは特異な事件が起きたじゃないですか。いじめっていう。教育委員会がふがいなさ過ぎて。それと例えば、大阪市の橋本市長のところもそうなんですけど、それは地域によって選べばいいと思うんです。地方自治体で選べばいいって。国が何でもかんでも、一律に首長がね、権限を独占するようになっていうふうに押し付けしないで、それはメニューにして、あるところ

はそれでいいと、あるところは今の、まあ武雄市もそうですけど、今のままがいいというのをね、選ばせないと、僕はだめだと思うんですね。

だから、そこで大事なものは公明党なんです。自民党、何言っても聞きません。だから、今度の通常国会の法案の提出のときに、ぜひ、そのなんて言うんですか。そういう制度はあっていいと思うんだけど、ぜひそれを選ぶって。それ、地方自治体を選ぶということは、なかんずく選挙によって市民の皆さんたちが選ぶということにもなりますので、それはぜひね、公明党の松尾陽輔議員さん、言っといてください。本当、そういうふうに思っています。

いずれにしても、今、教育委員会については、いろんな問題、課題があるということも承知をしていますけれども、非常に今こういう活動ができていっているのも、こういう関係が、今の教育委員会と私どもの関係が、すごくうまく機能しているからできるということを申し添えたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番山口等議員

**○2番（山口 等君）〔登壇〕**

県内で鳥栖の小中学校で日本語強化というのがですね、2015年度から導入されるというような話も聞いております。この日本語強化の内容としましてはですね、ことわざの言語、俳句、短歌などの伝統的な言語文化、それと地元の伝統文化、それにあいさつ等の礼儀作法、こういった内容を取り組んでおられるそうです。

このような伝統文化とかですね、礼儀作法、道徳の心の教育もぜひ大事だと思うんですけど、今度新しく赴任された教育監は、こういったことの取り組みについてどう思われるか、お尋ねいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

代田教育監

**○代田教育監〔登壇〕**

今、議員の意見にありました言葉づかいであるとか、あいさつであるとか、礼儀作法、道徳、こういったものは非常に大事だと思っています。非常に大事だと思っているからこそ、ICTを利活用していく意義があるんじゃないかなというふうに思っています。

反転授業のところで説明をしましたが、ICTを導入すると、どうしてもですね、デジタル人間をつくるか、あいさつをしなくなるか、まったく逆のほうな反論があるんですけども、実はICTを使うことによって、御説明しましたとおり、クラスでの話し合いとかチームワークとか、そういったものを、もっともっと時間を生み出していこうという施策です。つまり、議員がおっしゃるような、ICTを利活用してですね、こういった言葉づかい、あいさつ、礼儀作法、こういったものに学校が、先生もじっくり時間がとれる。こん

な教育をすすめていきたいというふうに思います。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。このような心の教育はですね、ICTを利活用した教育と、また心の教育ですね。伝統文化、言語文化、礼儀作法等ですね、心の教育。これを平行して、ぜひ進めていってほしいと思います。特に先ほど言った、小学校の低学年にはですね、基礎的なことですので、早くいろんな指導をしていただいて、世の中に送り出すような基本をしっかり結びつけて、指導してほしいと思います。

そしたら、次のですね、教育関係の2つ目になります。武雄小学校の改築工事で周辺整備の内容についてちょっとお伺いいたします。現在、武雄小学校の校舎はですね、新しくでき直りまして、今は引っ越しの作業をですね、年内に引っ越しという作業をされております。ここまで工事等も順調にきておりますけども、新校舎への引っ越しが終わると仮校舎が解体されてグラウンドも復旧されます。それで、子どもたちですね、待ちに待ったグラウンドですね、一生懸命遊ぶとか、飛びまわるとか、今、非常に不都合生じていますけども、そういったことで子どもたちもですね、元気よく遊ぶようなことができると思います。

それで建築物はですね、なりますと、今後、給食室がまず解体されて、その後、体育館の建設工事に入って行くわけなんですけど、体育館のそばの西側の法面がどのような整備計画を今現在されているか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

武雄小学校の西側の斜面ですけれども、体育館の建設予定地であるところにつきましては、法面の改良工事を行っております。これがですね、約52メートルほどございます。それから、西側の道路のほうに向かいまして、さらにですね、20メートルくらい延ばそうという計画で、法面につきましては、傾斜がきつところをですね、そういう形にしたいというふうに思っております。残る部分も延長あるわけですけれども、勾配が安定勾配を保っているというようなこともございまして、この部分につきましては、法面の改良工事につきましては計画ございませんけれども、フェンスをですね、西側全面140メートルほどございますけれども、安全面を配慮しまして、フェンスの取り付け工事を行うという予定にいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

ちょっと写真を見てほしいんですけど、これは給食室ですね。それで、これが西側の法面

なんですけども、ここのところの整備をぜひお願いしたいということですね、非常にこれ、今見てみますとこのあたりが旧石積みといいますか、空積みですね、石積みについてあってですね、非常に、今給食室で車等は通らないんですけど、今後、体育館が北側のほうにまわりますので、この横を車が通るといようなことになってですね。

それで、体育館の横、ここのところも、今、安定勾配と言われましたけど、体育館の後は駐車場になる予定です。体育館も、避難場所といいますか、災害時ですね。そういったことも使われる予定もあると思うんですよ。そういったことで、極力ですね、広いスペースの駐車場を確保する意味でも法面保護をきちっとやって、広い駐車スペースにして、たくさんの車が極力止められるような状態にですね、ぜひしてほしいと思います。

それで、もう1つですね——仮設の工事用道路を、昨年ですか、12月の議会で私、質問させていただいて、仮設道路がすぐ対応していただきまして、できました。それによって、交通整理が若干削減できたと。それと、市道の補修関係の費用が少なくて済むというようにと、もう1つがですね、保育園の横の道路を工事用道路が通行するようになってたんですけども、そのこのところを通らずに現地に行けるといようなことで、保育園の横が時間制限がありまして、大体3時半ごろから下校時の5時近くまでは、ちょっと工事車両が通ってくれるなというようにと、非常に作業効率が落ちるような状態であったんですけど、それをですね、何とかこう克服してスムーズに工事ができるようになっております。

そういったことで、いろんな費用対効果を望みますので、極力、西側ですね、法面の施行をですね、この体育館が解体された後に作業ヤードができますけども、そのこのところでぜひお願いしたいなという気持ちです。

それともう1つなんですけども、左が新しい学校ですね。それと、プールがあるんですけど、ここのところが非常に狭いんですね。それでこの奥が体育館の予定地なんです。それで、体育館に行くときもスムーズにいけるような状態で、ここのプールのフェンスのところをですね、少し改良できないかということです。

〔市長「大丈夫」〕

角のところをですね。（発言する者あり）こういったことで、ぜひ周辺整備をお願いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○2番（山口 等君）〔続〕

先ほど言いましたけど、50年に1回くらい整備するような工事ですので、ぜひそういった周辺もですね、確認されて、ぜひお願いしたいと思います。

そしたら次のまちづくりについてでございます。

今の、田代酒造の跡はどうなるかというようにと、非常に私自身も関心持っているわ

けなんですけど、これが解体以前の田代酒造です。これが解体後の田代酒造ですね。残された外壁です。田代酒造跡の整地したところなんですけど、この田代酒造跡の活用についてでございます。

田代酒造はですね、新町の長崎街道のそばにあるんですけど、九州オルレの武雄コースの一つとなっております。これが8月末にですね、解体をされました。それで、今後の活用方法をどのように考えておられるか、まずお尋ねいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

宮下つながる部長

**○宮下つながる部長〔登壇〕**

昨年の12月の議会の一般質問でも答弁をいたしました。武雄市としましてはですね、市民価値が高くなるためにということで、いろんな用途を検討しているということで、現時点ではそういう段階でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私は、ああいうのを買うこと自体が、僕は……（発言する者あり）間違ってたと思うんです。私語は慎んでください。間違っていたと思うんですよ。それでね、ものすごく多額の税金をこの田代酒造跡地に使って、しかも何も活用されなくて、結果こうなっちゃうんですね。だから、今後の跡地利用についてどうかなんて、僕らに問う前に、前やった人に聞いてくださいよというのは暴論ですけども。

そうじゃなくて、この跡地利用って、あの場所自体はすごく市民価値が、先ほどあったように高いところありますので、これは広く意見をやっぱり聞かなきゃいけないと思っていますし、それこそね、これ議会、議会のここは意見をちゃんと聞きたいと思っています。ですので、最終的な議決権は議会にもありますし、今までの経緯から含めると、住民の皆さんの御意向、そして議会の意向を付度しながら我々としては案を提示したいと思います。重ねてではありますけども、僕がその当時市長だったら、絶対にあんなところは買いません。無責任です。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番山口等議員

**○2番（山口 等君）〔登壇〕**

跡地の活用に関してはですね、地元の声としては公的な施設とか、分譲したらどうかというような話もあるそうでございます。そういったことで、長崎街道のそばでもありますので、そういった風情を残したような開発ができればなと思っていますので、十分検討されて、進めてほしいと思います。

次の質問に移ります。

武雄への来訪者、特に観光、視察等でたくさんの方が今武雄に見えていますけど、その経済効果についてであります。

武雄はですね、5年前、がばいばあちゃんのテレビドラマで知名度を上げることができました。

また、この4月からはですね

**○議長（杉原豊喜君）**

静かに。

**○2番（山口等君）（続）**

リニューアルオープンしました、武雄市の図書館で急激にまた武雄を訪れる方が非常に多くなっております。特に先ほど言いました武雄市の図書館ですね。それと、市民、新武雄病院。それと、あのオルレですね、オルレ武雄コース。韓国からもたくさん見えていますけど、昨日もちょっとお話が出てました、灯ろう祭り。それと円応寺の桜、これは季節的なことなんですけど。

こういったことで非常に今、武雄を訪れる方が多くなってますけど、人数的に大体どれくらいここ数年で訪れておられるのか、そういう推移がわかればですね、数字的なことがわかれば、教えてほしいです。お願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

ちょっと推移については、ちょっとこれ数え方もありましてね、これちょっと言うよりは、むしろ、武雄市が合併をしたのが7年半前です。7年半前からどれくらい増えているかというのを中心にちょっと申し上げたいと思うんですけれども、まずその当時は当然なかった図書館の来館者については、4月のリニューアル以降、11月末現在で、約66万人の方がお見えです。これ経済効果を試算をしたら、観光動態調査の単価を使った場合には、経済効果が約14億3,000万円。それと広告効果については、これは東京キー局の民放テレビのみで出したんですけど、約16億円。ですので、少なく見積もっても、広い意味での経済効果が30億円以上あります。

行政視察数なんですけれども、議会のおかげで爆発的に今また増えていますけれども、平成24年度が、行政視察の来訪者の方が1,614人、平成24年が1,614人。平成25年度、今年、今年度が11月末現在で、3,682人もお越しになっています。

経済効果は、平成24年度が、約1,900万円。平成25年度11月末現在で、約4,000万円となっています。

オルレの体験者、これも合併当時なかったものなんですけど、オルレの体験者は——そう

いけばきょうですね、あそこユートピアにご飯、お昼ご飯食べに行ったんですよ、そのときに、あの韓国から……（発言する者あり）ハートピア、ユートピアってなんでしたっけ。ちょっとごめんなさい、議場が熱すぎて。申し訳ないです。

ハートピアに、あそこハートピアの前がコースなんですね、オルレのコースなんですけども。そこで、韓国人の方がたくさんお見えでした。たくさんお見えで、少なく見積もっても、もう30～40の方が平日のこういうお昼前にもかかわらず、あの前を歩いていかれていましたので、これはやっぱりすごいなと思って、数字をちょっと事務方に確認してもらったら、平成24年3月のコース認定以降、平成24年度8,000人。平成24年度で8,000人。平成25年度末は、7月末現在で3,340人で、このオルレだけで、合計1万1,340の方が歩かれています。経済効果は、平成24年度は約1億500万。平成25年度7月末現在で、約4,500万円となっています。

私から最後にしますけれども、きょうちょっとそのオルレを見て驚いたのがね、何か見たことがある人がおるねって、オルレと思ったらですね、おるねと思ったら、あの松尾千春が、うちの職員の観光課の松尾千春が先頭で歩いていたんですね。

けっこう流暢な韓国語、流暢かどうかわかりませんが、韓国語で喋っているんですよ。で、やっぱりねここだと思うんですよ。やっぱり、我々が知らないところで、行政の職員が、こういうふうに一生涯懸命に起こしているのを見たときに、これ身内ではありますけれども、本当に観光課を中心によく頑張っています。ですので、そこで、市民の皆さんたちもね、また一緒になって盛り上がれば、武雄というのはもっといいところになるんだろうなというふうに思っています。

いずれにしても、この観光客とか来訪者の爆発的な増加については、これを今度は市民の皆さんたちにね、ちゃんと利益として出てくるようにしていかなきゃいけないと思っていますし、もう現に出ています。タクシーとか、例えば宿泊施設、飲食店とか、人によりますけど2割ぐらいは増えている、収入が増えているということも聞きますので、そういったことを、引き続きやっていきたいと思います。

やっぱり今までの後ろ向きな、後ろ向きが横行したような、やっぱりね、物言いじゃなくて、もっと前向きにね、これやろう、あれやろうというふうになることを、私自身も期待をしていますし、その先頭に立っていききたいと、そのように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番山口等議員

**○2番（山口等君）〔登壇〕**

図書館で66万。そして、行政視察でも3,600人といいましたね。それとあの、オルレが1万人以上。これだけのたくさんの方がですね、武雄に見えてますけど、この状態をですね維持して、さらなる誘客につなげるためには、どのような取り組みを担当部としてはですね、

考えておられるのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

担当部ではなくて、僕に聞いてください。

〔2番「まずは担当です」〕

そうですか。まずはね。

これ、いろんな取り組みがあると思うんですよ。例えば、4カ国語対応のパンフレットとかもあると思うんですけど、多分そうではなくて、やっぱりね、これから増やそうと思ったら、市民の皆さんたちのおもてなし力だと思うんです。

私がうれしかったのは、佐賀新聞のなんていうんですか、読者の投稿の欄、あるじゃないですか。……（「広場」と呼ぶ者あり）広場ですね。広場にね、どこかの他県の方のコメントで、武雄にやってきましたと。そのときに、武雄高校の生徒があいさつをしてきて、場所を何か聞いたらしいんですよ、どっかの場所を。聞いたら、いや案内しますというふうに、案内しますと言って、そこまで届けたそう、届けたじゃないや、一緒に行ってくれたそうなんですよ。それが広場に出て、僕はそこすごく感動したんですね。その方はもう絶対にまた武雄に来ようと言って、いろんなところに多分おっしやってるはずですよ。だって佐賀新聞の広場に、他県の方が投稿してるぐらいですから。これだと思うんですね。

私自身の経験で、いろんなところに行かしてもらってますけれども、例えば、あそこです。小布施。小布施に行ったとき、仕事で行ったときに、朝、早く起きてジョギングしてたんですよ。そしたら、当然僕ってわからないおばあちゃんが、「ようこそお越しいただきました」って、「ご苦労様です」って言われたんですね。何か出所明けかと思いましたけど。ですのでそういうふうに、ご苦労様でしたというふうに言われたときに、また行こうとやっぱ思いますもんね。だからそういうなにげないあいさつとか、御あいさつとか、そういうのが市民にこう根付くようになるよね、それがすごくまたおのずと広がってくると思うし、そこに僕は議員さんの力というのはすごく大きいと思うんです。議員さんの力というのは。

だから名前を挙げませんが、積極的に観光客の皆さんたちに、例えば古川盛義議員さんもそうです。私、見たことがあります。実際に観光客の皆さんを案内している、武内を。ですので、そういうのが広がればね、広がれば、じゃあ次なにやろうあれやろう、というのがもっと広がってくるもんだなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口等君）〔登壇〕

いろんなですね施策を考えておられますけど、私一つ、あの提案なんですけども、街角

案内所というようですね、立ち寄り所を設けられないか。

オルレコースの中でも結構と思うんですけども、ガソリンスタンドとかですね、いろんな事業所、またコンビニ等に、そういったちょっと立ち寄られる、道案内とかですね、そういったことができるような、パンフレットを置いたり、また韓国語入りのいろんなその案内等を準備してですね、市民ぐるみのサービスができないかなということで、そういった街角案内所みたいなものを置いたらどうかと思うんですけども、このところについて市長どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私はね、これは申し訳ないんですが、あまり意味がないと思ってるんです。我々が街角案内所というふうにしたところにしても、それは完全に提供者目線で、やっぱりね、ここにあればいいなって思うような所に、民間の方が自然発生的に出していただいて、そこを行政が足らざる部分があればね、そこを出していくというのはあると思うんですね。だから、それは必ず需要が出てくると思います。

今これだけ多いというふうになっているので、もう少しやっぱりスピードを出して解決すべき問題と、やっぱりじっくり解決すべき問題とあれば、これはもう少し時間をおいて、もう少しご利用者とか観光客の皆さんたちの意見を聞いて、やっぱりここは必要だよねと言ったときに、まず民間の方々がやっていただいて、なおかつそれで足らざる部分があればね、緊急避難的に行政が応援するというふうになると思うんです。

実際、等議員さんもそうですけれども、いろんなところに行ったときに、パンフレットが置いてあっても絶対とらないですよ。行ってても。そんなもんなんですよ。だから、どう考えてもやっぱりこう、利用者目線じゃなくて、提供者目線になっているところが、日本の観光地の場合、あまりにも多いというふうに思ってますので、それよりも、例えばですね、うち徳永鮮魚店さんというのが今あるんですよ、近くに、西浦の。あって、そこが実際、観光案内所みたいに実はなってるんですよ。どういうことかということ、あそこから武雄温泉の楼門に、今また増えてきてますので、結構道案内されてますもんね。

だから、そういう市民の力というのが、武雄市の場合ものすごくやっぱ大きいので、そういうものをうまく活用、既存の物で活用するというのも、すごく僕は大事だとこのように認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口等君）〔登壇〕

本当人口5万くらいの武雄市がこれだけ活力ある市になったのも、本当に、樋渡市長ので

すね、いろんな政策……（発言する者あり）のおかげだと思っております。

これはさらなる誘客に結び付けるようにですね、いろんなアイデアを出し合いながら、本当におもてなしの、さきほど言われましたけど、おもてなしの心で、ぜひ誘客に結び付けてですね、市民の所得の維持向上に続けていただき、また元気ある、活力ある武雄市になって行けば良いなと思っております。

以上を持ちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

**○議長（杉原豊喜君）**

以上で、2番山口等議員の質問を終了させていただきます。